

週刊 **タバコの正体**

妊娠中や産後にタバコの影響を受けると新生児の健康を害します。下図にあるように妊娠中には胎盤を通して赤ちゃんに有害物質が届きます。すると、流産、早産や低体重児の出産、そして乳幼児突然死や喘息の危険性が大きくなります。このうち、右下のグラフにあるように気管支ぜんそくの危険性は1.5倍、乳幼児突然死症候群は4.7倍にもなるそうです。それに加え、アトピー性皮膚炎や湿疹の発症率も高くなるようです。

妊婦がタバコの煙にさらされると、赤ちゃんは生まれる前からこんなリスクを負わされる事になります。そんなかわいそうな事はしたくありませんよね、新しい命のためにもタバコは必要ありません。

産業デザイン科 奥田 恭久

妊娠中・産後のタバコの影響

妊娠中も、出産後も禁煙しましょう

妊娠中の喫煙

胎盤を通してお腹の赤ちゃんに、有害物質が届きます。

産後の喫煙

母乳を通して赤ちゃんに有害物質が届きません。

タバコにより
高まる危険性

妊娠、出産への影響

- 切迫流産・切迫早産
- 低出生体重児
- 胎児の発育の遅れ 他

新生児・子どもが受けるタバコの影響

- 乳幼児突然死症候群
- 喘息 他

こんな病気になりやすくなる

- がん(子宮頸がんなど全身のがん)
- 心筋梗塞
- 慢性閉塞性肺疾患
- 脳卒中
- 糖尿病
- 歯周病 他

他にも、様々な病気のリスクが

福島県 HP「受動喫煙防止について」から

喫煙・受動喫煙による子どもの健康への影響が指摘されている例

- 低体重
- 早産
- 破水などの妊娠や出産時の異常
- アトピー性皮膚炎
- 乳幼児突然死症候群
- 大人になってからの慢性閉塞性肺疾患(気管支炎や肺気腫など)

出生後のぜんそく

喫煙、受動喫煙なし

26.6%

喫煙、受動喫煙あり

38.0%

赤ちゃんとアトピー性皮膚炎や乳児湿疹の割合(%)

たばこの煙と皮膚疾患の関係

※親のアレルギーがない375組のデータ。妊娠28週以降に喫煙・受動喫煙を経験したケース。愛媛大学病院小児科・篠原医師の研究から作成

